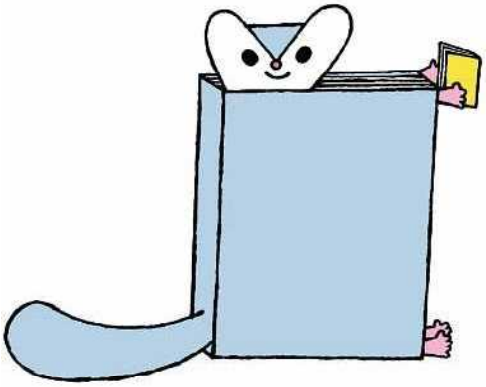
２０２３年６月

『 じゃむパンの日 』

～エッセイ集の最高傑作かも・・・～

赤染　晶子

　赤染晶子さんは、「乙女の密告」で第143回芥川賞を受賞した京都出身の小説家です。大変残念なことに2017年、急性肺炎のため42歳で亡くなられました。北海道大学大学院でドイツ文学を研究されるなど、北海道にも縁がある方です。
　赤染さんが亡くなられた５年後、２０２２年に出版されたエッセイ集が、今回のオススメ本、『じゃむパンの日』です。２００６年から２０１１年までに書かれたもので、京都の街の息づかいが聞こえる、おかしくもいとおしいステキな55編が収まっています。
　この本を出版したのは、「ひとり出版社」を立ち上げた加藤木礼（かとうぎれい）さんです。加藤さんは大手出版社の編集者でしたが、独立して初めて手がけた一冊が、この『じゃむパンの日』でした。そのことは、業界ではかなり話題になったようです。
　１編１編がとにかくおかしく、いとおしい。登場人物は身近にいる母親や祖父母、近所のおばちゃん、おっちゃんたち。軽妙な文と巧みな間合いで、あっという間に引き込まれてしまう、最高のエッセイ集です。

　版元の加藤木礼さんは、「日常を描きながらも思わぬところに読者を連れていく、たぐいまれなる想像力。ふつうの暮らしを営む人たちを見つめる赤染さんのまなざしがあたたかくて、ほっと和らぐ読み心地を生んでいます」と、熱く語っています。
　ぜひ、手にとっていただきたい一冊です。